

世界旅打ち気分

●第41回・ターフパラダイスとタンパベイ

須田鷹雄



タンパベイのギフトショップは品揃えが超充実



タンパベイダウンズ競馬場のレース風景



いかにもアリゾナという雰囲気のターフパラダイス競馬場

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/> の
#グリーンファーム会報#2022年1月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

今日は、それなりの都会にあるけど、他の用事が無いので再訪の機会があるかビミョー……というアメリカの競馬場を2つ紹介しようと思つ。

ひとつめは、アリゾナ州にあるターフパラダイス競馬場。州都のアリゾナにある。

確認したところ、「」を最初に訪問したのは07年3月だった。最初にどうでもいいエピフォードから」紹介したい。

当時筆者は、フロリダの2歳セールに行つていたなん日本に戻り、バレッジのセールで西海岸に行くというのを恒例にしていた。アリゾナには、後者の数日前に少し立ち寄るという日程だった。

しかしそれを観光ビザでやつていたところ（アメリカで報酬を受けないので違法ではない）、「お前先週アメリカ来たばかりだろ」と口寄るという日程だった。

サンゼルスの入国審査で別室送りとなり、そのまま取り調べ。拙い英語で説明して1時間後に解放されたが乗り継ぎ便には乗れず、同じエアラインの次便は5時間後……。という地獄の展開を経て、やつとラニックスにたどり着いたのだった。当時のフェニックスにはグレイハ

るようになりだつた。」の競馬場には日本の冬に避寒の目的も含めて訪れ、ライブレースのある日を狙いたいところだ。

今回紹介するもうひとつ競馬場、タンパベイダウンズも11月から5月はじめの開催なので、避寒地として行くには合つていい。ただ、冬場のタンパは日によってはそぞぞ寒いが……。

タンパは周辺を含めると240万人ほどの人口を有するようだ、全米でもトップ20に入る都會。ただ日本人が訪れる機会はあまりない都會だろう。

タンパベイダウンズはタンパの中北部から北西に車で30分ほどのところにある。ターフパラダイスと比べると競馬場としての重要度はかなり高く、G2のタンパベイダービーを筆頭に7つのグレードレースも行われている。

タンパは「ヨーロークヤンkeesのキャンプ地でもあるので、現業天イーグルスの田中将大投手も、ヤンkees時代にはキャンプ中の休日にタンパベイダウンズ競馬場を訪れたことがあるらしい。御本人には刺さらなかつたようなのだ

けど、他の用事が無いので再訪の機会があるかビミョー……というアメリカの競馬場を2つ紹介しようと思つ。

ひとつめは、アリゾナ州にあるターフパラダイス競馬場。州都のアリゾナにある。

確認したところ、「」を最初に訪問したのは07年3月だった。最初にどうでもいいエピフォードから」紹介したい。

当時筆者は、フロリダの2歳セールに行つていたなん日本に戻り、バレッジのセールで西海岸に行くというのを恒例にしていた。アリゾナには、後者の数日前に少し立ち寄るという日程だった。

しかしそれを観光ビザでやつていたところ（アメリカで報酬を受けないので違法ではない）、「お前先週アメリカ来たばかりだろ」と口寄るという日程だった。

サンゼルスの入国審査で別室送りとなり、そのまま取り調べ。拙い英語で説明して1時間後に解放されたが乗り継ぎ便には乗れず、同じエアラインの次便は5時間後……。という地獄の展開を経て、やつとラニックスにたどり着いたのだった。当時のフェニックスにはグレイハ

りだつたがいざれも開催はしていよいよだ。

本題の競馬場は市内中心部から車で15分ほどのところにあり、すぐ横には大型スーパーのウォルマートがあるなど、栄えていた地域でもある。サラブレッドとタオーターホースの開催を行い、11月から翌年4月がシーズンだ。

グレードレースはなく、競馬場最大のレースは3歳だとターフパラダイスダービー、古馬はフェニックスゴールドカップ。ダービーの賞金は総額10万ドルだったのが、コロナ禍で7.5万ドルになってしまったようだ。

ダービーの日だけはカリフォルニアの騎手なども遠征してくれるようで、過去の優勝騎手にはアレックスシリスなどもいる。日本で同じくあるところでは、フリートストリートダンサーでJCダートを勝つたジョン・コートがターフパラダイス

が、筆者が個人的に思うところでは、じんまりしている一方で活気のある、なかなかの競馬場だと思う。競馬新聞を売るカウンターから軽食売店も何か所もある。スタンドの構造物そのものは昔と同じなのだと思うが、内部は比較的最近リノベーションされたようだ。古くさはない。若いファンや競馬初心者が来ても違和感なく楽しめると思う。

そしてこの競馬場には、かなり品揃えの充実したギフトショップがある。全米3大競馬場ギフトショップを選ぶとしたらサンタアーノとチャーチルダウンズは入るだろうが、第3の枠をタンパベイダウンズ、ルイジアナダウンズ、ロスマーリーを筆頭に7つのグレードレーストスあたりで争うのではないかと思う。

筆者がタンパベイダウンズを訪問した日には「XXL」のTシャツどちら10ドル」という、「俺が来るの知つてた!」というセールが行われおり、当然のことながら爆買算して買うのが大変だったのを見た。

ウンド（トッグルース）もあり、毎日夜7時半から開催という日数の多さだった。ここにも訪れたのだが、その後10年経つか経たないかで廃止されてしまった。アメリカはグレイハウンド排斥がかなり進んでいて、アリゾナはツーリングなどにトラックがあつたがいざれも開催はしていよいよだ。

本題の競馬場は市内中心部から車で15分ほどのところにあり、すぐ横には大型スーパーのウォルマートがあるなど、栄えていた地域でもある。サラブレッドとタオーターホースの開催を行い、11月から翌年4月がシーズンだ。

グレードレースはなく、競馬場最大のレースは3歳だとターフパラダイスダービー、古馬はフェニックスゴールドカップ。ダービーの賞金は総額10万ドルだったのが、コロナ禍で7.5万ドルになってしまったようだ。

ダービーの日だけはカリフォルニアの騎手なども遠征してくれるようで、過去の優勝騎手にはアレックスシリスなどもいる。日本で同じくあるところでは、フリートストリートダンサーでJCダートを勝つたジョン・コートがターフパラダイス

場内にはギフト・ショップもある。競馬場オリジナルのグッズはそれほど多くはなく、サングラスや競馬雑誌など一般商店の色彩が強い。ただ、競馬場の帽子やナショナルマークは置いている。アメリカはギフト・ショップのある競馬場が多いので、日本人の好みには合っている買えばクラブハウスにアップグレードできる。

競馬場オーナーのグッズはそれほど多くはなく、サングラスや競馬雑誌など一般商店の色彩が強い。ただ、競馬場の帽子やナショナルマークは置いている。アメリカはギフト・ショップのある競馬場が多いので、日本人の好みには合っていると言えるだろう。

ターフパラダイスには2014年に収録したアメリカカロケで再訪する機会があったのだが、そのときは開催日ではなくサイマルのみ。サイマルの日にはギフト・ショップは閉店していた。ただ競馬場そのものは売上上げが少ないなりに存続している。

ターフパラダイスには2014年に収録したアメリカカロケで再訪する機会があったのだが、そのときは開催日ではなくサイマルのみ。サイマルの日にはギフト・ショップは閉店していた。ただ競馬場そのものは売上上げが少ないなりに存続している。

前述のとおりタンパという都市はあまり日本人が行く用事がない都市ではあるのだが、周辺を含めるとアメリカ4大スポーツのうち3競技の本拠地がある。

MLB（野球）はタンパから南西方向にタバコ湾を渡ったセントピーターズバーグにタンパベイ・レイズのトロピカーナフィールドがある。NFLのタンパベイ・バッカニアーズ、NHLのタンパベイ・ライトニングもここを本拠地としている。既に紹介したようにヤンkeesのスプリングトレーニングも行われるし、スポーツ観戦と組み合わせた渡航はよいかもしれない。かつてはカール・ビッチ宅があつて藤波辰爾や前田日明が修行したといふプロレスの街でもあるので、WWFの興行がある日なども狙つて地元客とともに盛り上がりたいところだ。

ダービーを2回勝つている。

競馬場の雰囲気は、アリゾナそのもの。コースの向こうに見えるのは荒れ地と山だけ。イメージだけアリゾナの風景を描いたらこんな感じになるだろう、という景色そのものだ。